

令和6年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数
国語表現	農業食品科 グリーン環境科 社会福祉科・3年	3

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 国語表現（大修館書店） <input type="checkbox"/> 副教材 国語表現 基礎練習ノート（大修館書店） <input type="checkbox"/> 問題集 現代の語彙力向上の壺（尚文出版）
-------------	---

科目の目標		
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>B 評価の規準</p> <p>【表現力を支える知識を身に付けることができた】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①書く力②話す・聞く力 ・③言語運用力④情報活用力 ・⑤情報収集の方法それぞれについて課題に取り組み、正確に記述しながら理解を深めている。 ・言葉によって表現するために必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して語感を磨き、語彙を豊かにしている。 	<p>B 評価の規準</p> <p>【知識を生かし、自ら考えることができた】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作文やスピーチ原稿、手紙、レポート等を身に付けた知識を生かして考えようとしている。 <p>【考えたことを表現することができた】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識を生かして自ら考えたことを書いたり、書いたものを発表したりすることができている。 <p>【話すこと・聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や場に応じて情報を収集、整理して、内容を検討している。 ・相手の反応や場の状況に応じて言葉を選び、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。 ・仲間の話をしっかりと聞き、仲間と協力して取り組もうとする姿が見られる。 	<p>B 評価の規準</p> <p>【主体的・意欲的に学習に取り組むことができた】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国語表現の授業を通して自己の表現力を鍛え、進路活動や将来に生かす」という目標を持ち、学習内容に興味を持って意欲的に取り組む姿が見られる。 ・課題を提出日までに不備のない状態で提出している。 ・学習や活動に積極的に取り組み、仲間との対話を通して共に表現力を高め合おうとする姿が見られる。
<p>※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。</p>		
<p>特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。</p>		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	言葉と出会う	2	・言葉と表記 ・整った文を書く
		2	・相手に応じた言葉遣い
		1	・わかりやすい文を書く ・文のつなぎ方
5	伝える、伝え合う	5	・自己紹介ゲーム ・言葉のストレッチ体操
		5	・絵や写真を見て書く ・マイニュース記事を書こう
6	自己PRと面接	3	・自分を見つめて
		3	・効果的な自己PR
		4	・将来の自分を考えよう
7	自己PRと面接	3	・志望理由を書こう ・自己推薦書や学修計画書を書く
3		・面接にチャレンジ	
8		2	・グループディスカッションをしよう
9	小論文・レポート入門	6	・小論文とは何か ・反論を想定して書く
		6	・レポートを書く ・論文を書くために
10	メディアを駆使する	6	・通信文を書き分ける
6		・電話を使いこなす	
11		6	・電子メールを活用しよう ・ネット社会との付き合い方 ・ネットを活用した情報収集
		4	・メディアと情報
12	会話・議論・発表	3	・相手や場面に応じた会話
		2	・建設的な議論の進め方
		3	・スピーチをしよう
1	会話・議論・発表	3	・プレゼンテーションの工夫

令和6年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数
歴史総合	農業食品科3年 グリーン環境科3年 社会福祉科3年	2

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 現代の歴史総合～みる・読みとく・考える～（山川出版社）
------	--

科目の目標		
<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>近現代史の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中のを広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>[知識]</p> <p>B 歴史的事象に関する知識について、その言葉を知っている、またその言葉の意味がわかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一問一答などの問題を解くことができる。 ・課題に答えたり自分の考えを書いたりするときに、適切な用語を用いることができる。 <p>A 知った知識を抽象化することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識を抽象化して捉えられているかを問う問題を解くことができる。 ・課題の答えや感想などの内容に、知識を抽象化して捉えていることが表れている。 <p>[技能]</p> <p>B 年表や地図その他の図表、史料などから必要な情報を読み取ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年表や地図その他の図表、史料などから必要な情報を読み取る問題を解くことができる。 ・読み取った情報をもとに課題の解決に取り組むことができる。 <p>A 関係する情報(用語など)を年表や地図やその他の図表の形に整理するこ</p>	<p>[思考]</p> <p>B 抽象化した知識を一般化して考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般化した歴史的事象の構造を別の事象にあてはめることで、ある歴史的事象とすでに学習した事象の共通点に気づくことができ、そのことが課題の答えに表れている。もしくはそのような問題を解くことができる。 <p>A 一般化した知識をもとに、歴史的事象を比較することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の歴史的事象を比較して、その共通点や相違点に気づくことができ、そのことが課題の答えに表れている。もしくはそのような問題を解くことができる。 <p>[判断]</p> <p>B 学習している歴史的事象に關係する立場や考え方を把握している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その歴史的事象に關係する人物や勢力などを把握することができ、そのことが課題の答えに表れている。もしくはそのような問題を解くことができる。 <p>A それぞれの立場から、歴史的事象の価値判断を行うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その歴史的事象に關係する人物や勢力などそれぞれの立場から、その事象がどのような意味を持つのかを考えて根拠立てて述べることができ、そのことが課題の答えに表れている。もしくはそのような問題を解くことができる。 <p>[表現]</p> <p>B ある歴史的事象を考えるにあたって、課題もしくは問いに対して最適な見方を選び自分の考えを述べるができる。</p>	<p>1 自己調整学習</p> <p>1-1 自分の学び方を見直して改善している。</p> <p>B 学習の振り返りを行い、改善策を考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの学び方を振り返ったことが、振り返りシートや感想の内容に表れている。 <p>A その改善策を具体的に実行に移している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの学び方を振り返った上での学び方の変化が、振り返りシートや感想の内容に表れている。 <p>1-2 自分からさらに学習を深めようとしている。</p> <p>B 課題に対して自分でさらなる問いを立てている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに深めたい部分や疑問に感じた点などに自分で気づき、その内容について発言したり、感想や課題などで記述したりしている。 <p>A 自分とのつながりや現代の諸問題を意識した問いを立てている。</p> <p>2 粘り強い取り組み</p> <p>自己調整学習を継続して行っている。</p> <p>B 1-1と1-2を一</p>

<p>とができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだ知識を年表や地図やその他の図表の形に表す問題を解くことができる。 ・課題の解決に取り組む中で、学んだ知識を年表や地図やその他の図表などの形に整理して利用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題もしくは問いの趣旨をふまえ、最も適した答えを述べるができる見方を選び、その見方から課題もしくは問いに対する答えを述べるができる。そのことが課題の答えに表れている。もしくはそのような問題を解くことができる。 <p>A 課題もしくは問いに対してその見方が最適であることを、他の見方を比較検討した上で選ぶことができ、自分の意見として述べて合意形成を図ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の考えに触れて、自分とは異なる意見や価値観、自分が選んだ立場とは異なる意見や価値観などにも目を向けた上で、根拠立てて自分の考えを述べ、共通理解を見いだすように努力している。そのことが課題の答えに表れている。もしくはそのような問題を解くことができる。 	<p>度で終わらせず、毎時間続けて行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想や課題の内容に見て取れる。 <p>A 続けた成果が [知識・技能]、[思考・判断・表現]の観点の成績にも表れている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想や課題の内容の変化やペーパーテストの点数の上昇などの形で表れている。
--	--	---

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	結びつく世界と日本の開国	3	<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀の東アジアにおける社会と経済 ・貿易が結んだ世界と日本
5		6	<ul style="list-style-type: none"> ・産業革命 ・中国の開港と日本の開国
6	国民国家と明治維新	5	<ul style="list-style-type: none"> ・市民革命 ・国民国家とナショナリズム ・明治維新 ・日本の産業革命
7		4	<ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義 ・変容する東アジアの国際秩序 ・日露戦争と東アジアの変動
8	総力戦と社会運動	2	<ul style="list-style-type: none"> ・第一世界大戦の展開
9		6	<ul style="list-style-type: none"> ・ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭 ・ヴェルサイユ体制とワシントン体制 ・世界経済の変容と日本 ・アジアのナショナリズム ・大衆の政治参加

			<ul style="list-style-type: none"> 消費
10	経済危機と第二次世界大戦	5	<ul style="list-style-type: none"> 世界恐慌の時代 ファシズムの伸長と共産主義 日中戦争への道 第二次世界大戦の展開 第二次世界大戦下の社会
11		5	<ul style="list-style-type: none"> 国際連合と国際経済体制 占領と戦後改革 冷戦の始まりと東アジア諸国の動向 日本の独立と日米安全保障条約
12	冷戦と世界経済	4	<ul style="list-style-type: none"> 冷戦下の地域紛争と脱植民地化 東西両陣営の動向と 1960 年代の社会 軍拡競争から緊張緩和へ 地域連携の形成と展開
1		3	<ul style="list-style-type: none"> 計画経済とその波及 日本の高度経済成長 アジアのなかの戦後日本
2	世界秩序の変容と日本	6	<ul style="list-style-type: none"> 石油危機 アジア諸地域の経済発展 市場開放と経済の自由化 情報技術革命とグローバリゼーション 冷戦の終結とソ連の崩壊
3		6	<ul style="list-style-type: none"> 現代の東アジア 東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカの民主化 地域統合の拡大と変容 地域紛争と国際社会 現代と私たち

令和6年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数
生物基礎	農業食品科、 グリーン環境科2年 社会福祉科3年	2

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 i 版 生物基礎（啓林館） <input type="checkbox"/> 研究ノート（博洋社）
-------------	---

科目の目標		
生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を計りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得するとともに、報告書を作成させたり発表させたりして、科学的に探究する力を育う。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養うことが重要である。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・学習活動に真剣に取り組 み、確認テスト等で振り返 ることができている。 ・観察及び実験の方法を正し く理解し、結果をまとめるこ とができる。	B 評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説 明できた] ・学習活動に真剣に取り組 み、仲間と協力して考え、提 案や発表ができる。 ・観察及び実験に仲間と協 力して取り組み、自分や班 の考えを記述できている。	B 評価の規準 [粘り強さ] ・学習課題に自ら取り組み、内容も学 習内容に沿っている。 [自分なりの工夫] ・教師の説明をメモしたり、自分な りのまとめをしたりするなど、独自の工 夫及び記述がある。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に 迷惑をかける人はC評価となります。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主 に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時 数	学習項目
4	生物の特徴	6	生物の共通性と多様性
5		7	生物とエネルギー
6	遺伝子とその働き	7	遺伝情報とDNA
7		8	遺伝情報とタンパク質の合成
8			
9	神経系と内分泌系による調節	5	情報の伝達
10		7	体内環境の維持の仕組み
11	免疫	8	免疫の働き
12	植生と遷移	8	植生と遷移
1	生態系とその保全	5	生態系と生物の多様性
2		5	生態系のバランスと保全
3		2	生態系のバランスと保全

令和6年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数
体育	3年 AGW 科	2

使用教材	<input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（教科書） <input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（ノート）
-------------	--

科目の目標		
体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次の通り育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な課題解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>B 評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動を通して技術の名称や実践、ルールやマナーを理解しようとしている。 ・課題解決法、練習法、試合法を理解しようとしている。 	<p>B 評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに毎時の反省を記入し、自己評価をしようとしている。 ・互いに助け合い、教えあい、高め合おうとしている。 ・役割を積極的に引き受け事故の責任を果たそうとしている。 	<p>B 評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備運動の声出し、活動時の周囲への声掛け、準備・片付けを積極的に行おうとしている。 ・活動の目的を理解し、実践しようとしている。 ・他者と協力して周囲に配慮をしようとしている。 ・健康・安全を確保しようとしている。 ・授業に積極的に参加しようとしている。
<p>※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、スキルテスト、体育理論で主に判断します。</p>		
<p>特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。</p>		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	ダンス 体づくり運動	10	現代的なリズムのダンス 体ほぐし運動 体の動きを高める運動 実生活に生かす運動の計画
5	球技（選択①）	8	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール
6	球技（選択①）	2	
	水泳	8	クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ 複数の泳法で泳ぐ、又はリレー。 着衣泳
7	水泳		
	体育理論	2	スポーツの始まりと変遷 文化としてのスポーツ オリンピックとパラリンピックの意義 スポーツが経済に及ぼす効果 スポーツの高潔さとドーピング スポーツと環境
8	球技（選択②）	2	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール
9	球技（選択②）	8	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン

			<input type="checkbox"/> バレーボール <input type="radio"/> ベースボール型 <input type="checkbox"/> ソフトボール
10	球技（選択③）	8	<input type="radio"/> ゴール型 <input type="checkbox"/> バスケットボール <input type="radio"/> ネット型 <input type="checkbox"/> バドミントン <input type="checkbox"/> バレーボール <input type="radio"/> ベースボール型 <input type="checkbox"/> ソフトボール
11	陸上競技（長距離走）	8	20分間走・4キロ走
12	陸上競技		20分間走・4キロ走
1	ダンス 球技	6	現代的なリズムのダンス <input type="radio"/> ゴール型 <input type="radio"/> ネット型 <input type="radio"/> ベースボール型

令和6年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数
介護福祉基礎	社会福祉科3年	3

使用教材	<input type="checkbox"/> 介護福祉基礎（実教出版） <input type="checkbox"/> 見て覚える！国試ナビ（中央法規）
------	--

科目の目標		
<p>介護福祉士に求められる専門性の中から、介護現場におけるリスク管理や、感染症対策、ストレスマネジメントなどを学びながら、現代に求められる介護福祉士像を考え、介護福祉士としての専門性と意識を身に着けていく。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
尊厳を支える介護，自立に向けた支援などについて理解するとともに，関連する技術を身に付けること	介護に関する意義と役割，地域における生活の継続性と介護などについての課題を発見し，職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決すること	介護に関する意義と役割，介護の必要性について自ら学び，主体的かつ協働的に取り組むこと

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>B 評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[知識・技能] ・介護に必要な知識や意義、役割について体系的・系統的に理解している。 [技能] ・関連する介護技術を身につけている。 	<p>B 評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> [思考・判断] ・介護に関する諸問題を発見することができる。 [判断] ・福祉倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決をする力を身に付けている。 [表現] ・自分の考えを文章や発表を通して表現することができる。 [評価物] ・課題レポート 	<p>B 評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> [主体的] ・よりよい介護を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組むことができる。 ・問題解決に向けて、他者と協力し、取り組むことができる。 [評価物] ・提出物（提出状況） ・課題レポート
<p>※定期考査及び単元・小テスト 「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価対象とする</p>		
A 評価		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	介護における安全確保と事故対策	4	・介護におけるリスクマネジメント
5		10	・事故予防対策 ・身体拘束の禁止について ・防災対策
6	介護実習		
7	感染対策	10	・感染症の理解 ・感染症の予防対策 ・介護現場で出会うことの多い感染症
8			
9	介護従事者の健康管理	4	・健康管理の重要性 ・心の健康管理

			・からだの健康管理
10		4	・労働安全衛生に関する知識 ・家族介護者の健康
11	介護福祉士国家試験対策 模擬試験		
12	介護福祉士国家試験対策 模擬試験		
1	介護福祉士国家試験		
2	家庭学習		
3			

令和6年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数
生活支援技術	社会福祉科3年	5

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 実教出版 生活支援技術 <input type="checkbox"/> 準教科書 中央法規 生活支援技術Ⅱ <input type="checkbox"/> 準教科書 中央法規 医療的ケア <input type="checkbox"/> 中央法規 見て覚える！介護福祉士国試ナビ2024
-------------	--

科目の目標		
自立を尊重した生活を支援するための介護の役割を理解させ、基礎的な介護の知識と技術を習得させるとともに、様々な介護場面において適切かつ安全に支援できる能力と態度を育てる。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自立生活の支援に必要な生活支援技術について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	自立生活の支援に必要な生活支援技術に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、生活支援技術に基づいた自立生活の支援に主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [知識・技術] ・ 自立生活を人間の尊厳、安全安楽、協働などの視点から捉え「こころとからだの理解」と関連付けて、生活の質の向上やサービス利用者の状態に合った自立生活の支援の必要性について理解できる。 [評価物] ・ 単元テスト ・ 小テスト	B 評価の規準 [思考] ・ 自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。 [評価物] ・ レポート ・ 提出物	B 評価の規準 [学びに向かう力] ・ 授業中の個人やグループで行う活動において、記録や発言などに主体的に取り組む。 ・ 定期考査や小テストのやり直しを通して、自らの課題に気づき改善しようとする力を身に付ける。
※定期考査		
A 評価		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	1. 2年の実技復習		<input type="checkbox"/> 排泄の支援の技法 <input type="checkbox"/> おむつ交換・陰部清拭
5			<input type="checkbox"/> 経管栄養の基礎知識 <input type="checkbox"/> 経管栄養実施
6	介護実習【6月上旬～7月上旬】		
7	実習のまとめ		
8	国家試験対策		<input type="checkbox"/> 実習を振り返ろう！！
9			<input type="checkbox"/> 介護福祉士国家試験対策
10			(1, 2, 3年の復習)

令和6年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数
介護過程	社会福祉科3年	3

使用教材	<input type="checkbox"/> 介護過程（実教出版） <input type="checkbox"/> 見て覚える！国試ナビ（中央法規）
------	--

科目の目標		
<p>人間としての尊厳の保持と自立生活支援の観点から介護過程の意義と役割を理解し、介護過程が展開できる能力と態度を着けていく。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>サービス利用者に応じた適切な介護の提供には介護過程が必要なこと及び介護過程の一連の流れについて理解する。</p>	<p>将来の自立に向けた生活課題の解決及び目標の設定、サービス利用者の希望を尊重した介護計画の立案など介護過程の要素を理解させ、介護従事者として必要な視点と能力を身に付ける。</p>	<p>介護過程に関する意義と役割、介護過程の必要性について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [知識・技術] ・実践的・体験的な学習活動を通して、ICFの視点を活用した利用者の全体像の理解や利用者の望む生活の実現ができるよう、根拠に基づいた介護過程の展開を行うための知識・技術を習得する。	B 評価の規準 [思考・判断・表現] ・事例演習やロールプレイなどを取り入れながら、コミュニケーション能力や観察力、判断力、思考力などを身に付ける。 [評価物] ・提出物 ・課題レポート	B 評価の規準 [学びに向かう力] ・個人ワーク、グループワークでは、ワークシートやリアクションペーパーを活用しながら自身の課題を明確にし、その解決をはかる。 [評価物] ・提出物（提出状況） ・課題レポート
※定期考査※定期考査及び単元・小テスト 「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価対象とする		
A 評価。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	介護過程の意義と目的		<ul style="list-style-type: none"> 生活支援と根拠に基づいた介護 介護過程の目的・基本視点
5	介護過程の展開		<ul style="list-style-type: none"> アセスメント、情報収集 情報の解釈、関連づけ、統合化 課題の明確化 目標の設定
6	介護実習		<ul style="list-style-type: none"> 介護過程の実施・
7	介護過程の評価		<ul style="list-style-type: none"> 評価 モニタリング
8			
9	介護福祉士国家試験対策		
10			
11	模擬試験		
12	介護福祉士国家試験対策		

	模擬試験		
1	介護福祉士国家試験		
2	家庭学習		
3			

令和6年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数
介護総合演習	社会福祉科3年	1

使用教材	<input type="checkbox"/> 介護総合演習・介護実習（実教出版）
------	--

科目の目標		
介護演習や事例研究などの学習をとおして、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、課題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
介護実習が適切かつ総合的に展開できるよう、介護実習の意義や目的などについて理解するとともに、関連する技術を身に付けること。	介護実習を通して、個人情報保護やリスクマネジメントなどについて課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決すること。	地域での継続した生活を支援する介護実習について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むこと。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [知識・技術] ・地域福祉や福祉社会について体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付けている。	B 評価の規準 [思考] ・地域福祉や福祉社会に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ解決策を探求している。 [判断] ・科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う [表現] ・自分の考えを文章や発表を通して表現することができる。 [評価物] ・課題レポート内容	B 評価の規準 [主体的] ・地域福祉や福祉社会の発展のために福祉の見方・考え方を働かせ、協働的に取り組むことができる。 [評価物] ・提出物（提出状況） ・課題レポート内容
※定期考査及び単元・小テスト 「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価対象とする		
A 評価。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	第4章 実習先の特徴、実習先での学び	2	・実習先概要調べ
5	第3章 介護実習準備、実習中・実習後の学び	4	・ファイル作成 ・事例研究 ・オリエンテーション準備 ・自己紹介シート作成 ・オリエンテーション実施
6	第3章 介護実習準備、実習中・実習後の学び	4	・介護実習 ・日々の目標を立て、実践す ・実習記録物の記入 ・介護過程の実践

7	第3章 介護実習準備、実習中・実習後の 学び	2	・施設お礼状作成 ・実習振り返り ・実習を振り返り、介護過程・介護技術に ついてまとめる
8			
9	第4章 実習先の特徴、実習先での学び	4	・実習報告会準備 ・実習で実践した介護計画をもとに、個別 的及び集団的な援助を考察
10	第4章 実習先の特徴、実習先での学び	4	・パワーポイントを活用した実習報告会の 準備
11	介護実習報告会	4	・3年間の学びを踏まえの実習報告（校 内）
12	介護実習報告会	5	・3年間の学びを踏まえの実習報告（校 外）
	事例検討会		事例をもとに事例検討会を開き、他学年に 伝える。
1	第37回介護福祉士国家試験		
2		4	
3			

令和6年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数
介護実習	社会福祉学科 3年	2

使用教材	<input type="checkbox"/> 介護総合演習・介護実習（中央法規）
-------------	--

科目の目標		
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、根拠に基づいた介護及び支援を実践するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
介護及び支援の実践について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	介護及び支援の実践に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ化学手金根拠に基づいて創造的に解決する力を養う	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、介護及び支援の適切な実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
20%	40%	40%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [知識・技術] ・地域福祉や福祉社会について体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付けている。	B 評価の規準 [思考] ・地域福祉や福祉社会に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ解決策を探求している。 [判断] ・科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う [表現] ・自分の考えを文章や発表を通して表現することができる。 [評価物] ・課題レポート内容	B 評価の規準 [主体的] ・地域福祉や福祉社会の発展のために福祉の見方・考え方を働かせ、協働的に取り組むことができる。 [評価物] ・提出物（提出状況） ・課題レポート内容
※定期考査はありませんが、実習の記録物、施設評価等実習に係る提出物が評価対象となる。		
A 評価。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4			
5			
6	介護実習Ⅱ期 6月上旬 (23日間)	65	<ul style="list-style-type: none"> ・介護計画の立案 ・介護技術の実践 ・介護計画表の作成、実践
7			<ul style="list-style-type: none"> ・介護計画の評価、実習まとめ
8			
9			
10			
11			

12			
1			
2			
3			

令和6年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数
こころとからだの理解	社会福祉科3年	4

使用教材	<input type="checkbox"/> こころとからだの理解（実教出版） <input type="checkbox"/> こころとからだのしくみ（中央法規）
------	---

科目の目標		
人間のこころとからだのしくみの知識をもとに、疾病や障害について理解し、介護現場や地域において、認知症や障害のある方に対する自立支援を考え提供できる資質・能力の育成を目指す。また、日々の生活において活用することができ、将来の専門職に求められる力を身につけることを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自立生活の支援に必要なこころとからだについて体系的・系統的に理解すると共に、関連する技術を身につけるようにする。	自立生活の支援に必要なこころとからだに関する課題を発見し、介護従事者としての倫理観を踏まえて、科学的な根拠にもとづいて創造的に解決する力を養う。	科学的根拠にもとづいた生活支援の実践をめざして自ら学び、こころとからだにもとづいた自立生活の支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [知識・技術] ・自立支援に必要なこととからだに関する知識を理解し、関連する技術を習得する。 [評価物] ・単元テスト ・小テスト	B 評価の規準 [思考・判断・表現] ・自立支援に必要なこととからだに関する課題を発見し、科学的根拠にもとづいて解決する力を身に付ける。 [評価物] ・提出物 ・課題レポート	B 評価の規準 [学びに向かう力] ・授業中の個人やグループで行う活動において、記録や発言などに主体的に取り組む。 ・定期考査や小テストのやり直しを通して、自らの課題に気づき改善しようとする力を身に付ける。 [評価物] ・提出物（提出状況） ・課題レポート
※定期考査及び単元・小テスト 「知識・技術」「思考・判断・表現」を評価対象とする		
A 評価。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	障害の概念	6	・国際生活機能分類 ・障害者基本法の概要
5	福祉の基本理念	12	・ノーマライゼーション ・国際障害者年 ・リハビリ ・エンパワメント
	身体障害 ①視覚障害 ②聴覚障害・言語障害	6	・身体障害者福祉法 ・手帳 ・総数
6	【介護実習】		
7	【介護実習】		
	③肢体不自由	6	・脊髄損傷、脳性麻痺、脳血管障害
8			
9	④内部障害	6	・心臓、腎臓、小腸、肝臓、呼吸器機能障害

			<ul style="list-style-type: none"> ・膀胱または直腸機能障害、免疫機能障害
10	知的障害	6	<ul style="list-style-type: none"> ・知的機能の程度 ・手帳 ・ダウン症
	精神障害	4	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉法 ・主因分類
11	発達障害	14	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害者支援法 ・学習障害 ・自閉症スペクトラム ・注意欠陥多動性障害
	高次脳機能障害	4	<ul style="list-style-type: none"> ・種類 ・症状と生活上の困難
12	難病	5	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の受容・心理 ・障害と地域生活支援、家族への支援
1	介護福祉士国家試験対策	12	
2	家庭学習	12	
3			